

News Release



2023年12月22日

NITE (ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

法人番号 9011005001123

『ちょっとだけなら・・・』が命取り

～ここ3年で急増「除雪機の事故」を防ぐためのポイント～

大雪の際に強い味方となる除雪機ですが、誤った使い方をすると命を落とす危険もあります。独立行政法人製品評価技術基盤機構 [NITE (ナイト)、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原] は、1月から2月までの雪のピークを迎える前に、除雪機を安全に使うためのポイントをお知らせします。



進行方向の死角から子どもがソリで滑ってくる様子 (イメージ)

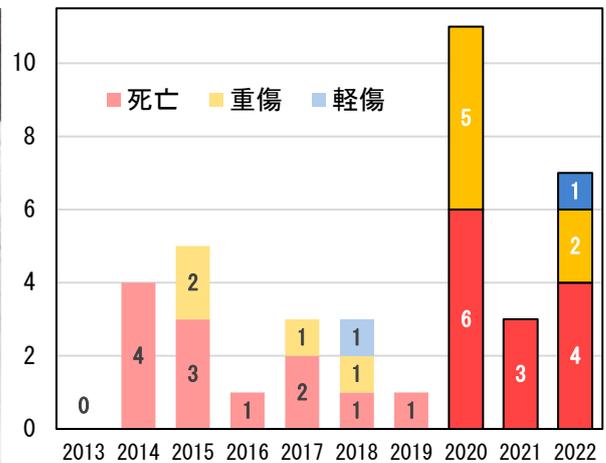


図1：年度ごとの事故発生件数

2013年度から2022年度までの10年間にNITEに通知された製品事故情報^{※1}では、除雪機によりけがを負った事故は38件ありました。このうち21件が2020年度から2022年度までの間に発生したもので、ここ3年で事故発生件数が多くなっています。また、除雪機の事故38件のうち25件が死亡事故となっており、その多く(25件中21件)が、使用者の誤使用・不注意によるものです。

誤使用・不注意の背景には、『ちょっとだけなら大丈夫』という使用者の除雪機に対する油断や過信が潜んでいます。『レバーを握り続けるのが大変だから・・・』『少しの間なら停止しなくても・・・』などと安全機能を無効化したり、エンジンを掛けたまま除雪機から離れたりして、事故に至るケースがあります。また、2022年には屋内でエンジンを掛けたままにしている際に一酸化炭素中毒で死亡する事故も発生しているため、除雪機の屋内での移動時や保管時にも注意が必要です。

近年は温暖化の影響で、全体の降雪量が減る一方で、湿った重たい雪が一度で大量に積雪する(どか雪の)傾向があり、今冬も除雪機の稼働が増えることが予想されます。長時間の除雪作業は大変ですが、油断や過信は命取りです。除雪機は、注意事項をしっかりと守って、正しく使いましょう。

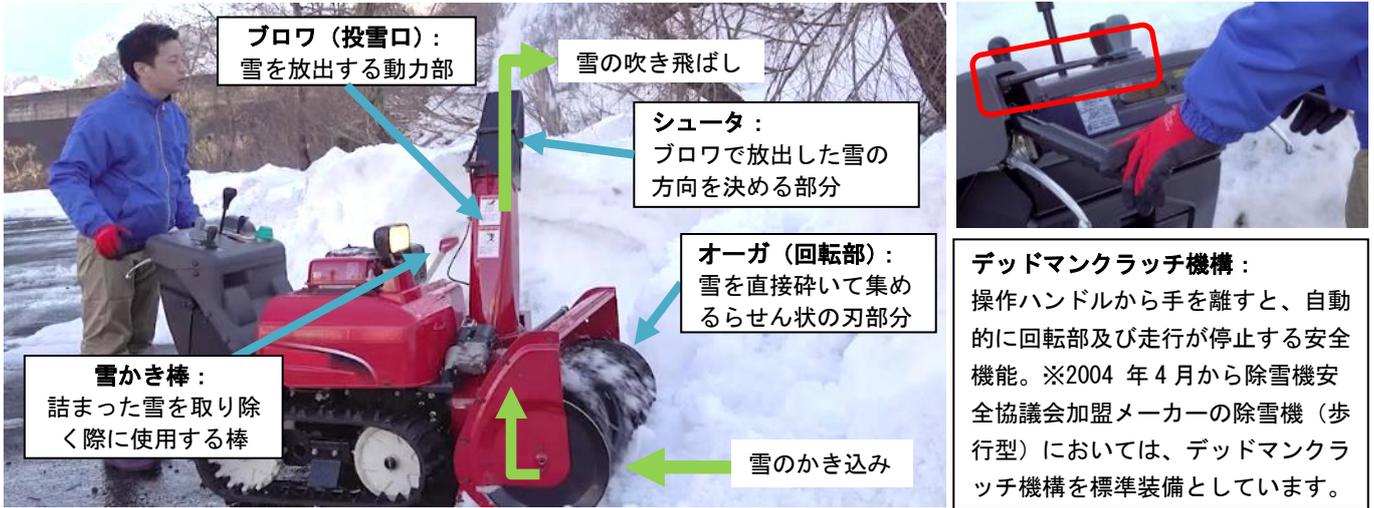
■除雪機の気を付けるポイント

- 安全機能を無効化しない。
- エンジンを掛けたまま離れない。
- 人が近くにいる時は使用しない。障害物に衝突しないよう注意する。
- 雪詰まりを取り除く際はエンジンを切り、雪かき棒を使用する。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンを掛けたままにしない。

(※) 本資料中の全ての写真は、実際の事故とは関係ありません。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含みます。

1. 除雪機の構造と各部名称



2. 除雪機の事故発生状況

除雪機によりけがを負った事故 38 件について、発生状況を示します。

2-1. 事故発生件数の内訳

図 2 に「被害状況別の事故発生件数」を、図 3 に「原因区分別の事故発生件数」を示します。除雪機の事故は被害状況別では死亡事故が最も多く、事故原因別では約 8 割が誤使用・不注意と推定されるものです。（死亡事故 25 件中 21 件、重傷事故 11 件中 10 件、軽傷事故 2 件中 1 件が誤使用・不注意と推定されるもの）

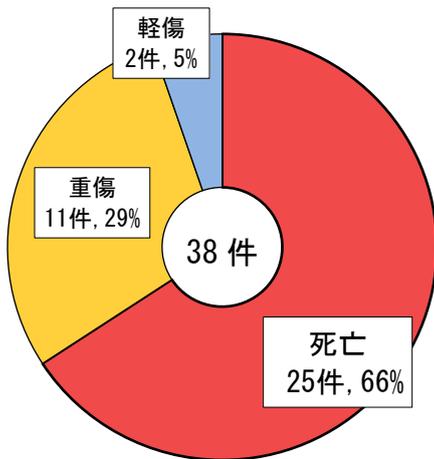


図 2：被害状況別の事故発生件数

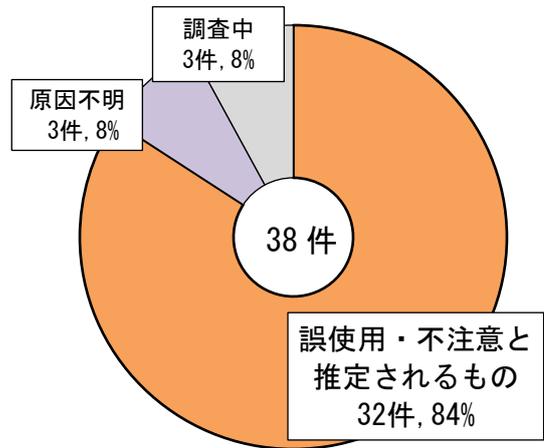


図 3：原因区分別の事故発生件数

2-2. 事故事象別の事故発生件数

表 1 に「事故事象別の事故発生件数」を示します。死亡事故は「除雪機の下敷きになった」、「除雪機に巻き込まれた」の 2 つの事象で多く発生し、重傷事故は「エンジンを掛けたままの除雪機内部に手を入れた」事象で多く発生しています。また、38 件中 26 件が安全機能を無効化したり、使わなかったりして事故に至っています。

表 1：事故事象別の事故発生件数（[]は、安全機能を無効化したり使わなかったりした事故の件数）

事故事象	死亡	重傷	軽傷	総計
除雪機の下敷きになった	15[12]	0	0	15[12]
除雪機に巻き込まれた	6[6]	1	0	7[6]
壁などに挟まれた	2	0	1	3
一酸化炭素中毒になった	2	0	0	2
エンジンを掛けたままの除雪機内部に手を入れて負傷した	0	10[8]	0	10[8]
除雪機を焼損する火災が発生し、やけどした	0	0	1	1
総計	25[18]	11[8]	2	38[26]

3. 事故事例

除雪機の下敷きになった事故

事故発生年月 2021年1月（広島県、80歳代・男性、死亡）

【事故の内容】

使用中の除雪機の下敷きになり、死亡した。

【事故の原因】

使用者が、デッドマンクラッチ機構を大きな洗濯バサミで固定して無効化したため、除雪機を後進中に転倒した際に、手を離しても除雪機の走行が停止せず、使用者に乗り上げて下敷きとなったものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

除雪機、下敷き、デッドマンクラッチ



除雪機の下敷きになった様子（イメージ）

除雪機に巻き込まれた事故

事故発生年月 2021年1月（新潟県、9歳・男児、死亡）

【事故の内容】

除雪機を使用中、こどもがオーガ（回転部）に巻き込まれ、死亡した。

【事故の原因】

除雪作業の途中、使用者が除雪機のエンジンを切らずにオーガが回転したままその場を離れたため、周囲で遊んでいたこどもがオーガに接触したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

除雪機、エンジン、オーガ



除雪機の近くでこどもが遊んでいる様子（イメージ）

エンジンを掛けたままの除雪機内部に手を入れて負傷した事故

事故発生年月 2022年12月（秋田県、50歳代・女性、重傷）

【事故の内容】

除雪機のブロウ（投雪口）に詰まった雪を取り除く際に、左手指を負傷した。

【事故の原因】

使用者がエンジンを掛けたまま、付属の雪かき棒を使用せずに直接手で除去したため、回転部に触れ、事故に至ったものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

除雪機、雪かき棒



ブロウに直接手を入れて負傷する様子（イメージ）

一酸化炭素中毒になった事故

事故発生年月 2023年1月（北海道、80歳代・男性、死亡）

【事故の内容】

物置で除雪機のエンジンを掛けたままにして、一酸化炭素中毒で1名が死亡した。

【事故の原因】

使用者が十分に換気されていない屋内で除雪機のエンジンを掛けたままにしたため、排気ガスにより屋内の一酸化炭素濃度が上昇し、一酸化炭素中毒に至ったものと考えられる。



換気されていない屋内でエンジンを掛けたままにして一酸化炭素中毒になった様子（イメージ）

除雪機の気を付けるポイント

○安全機能を無効化しない。

デッドマンクラッチ機構のクラッチレバーを固定するなどの安全機能の無効化をすると、使用者が転倒などした際に除雪機が停止せず、除雪機にひかれたり、巻き込まれたりするおそれがあります。



安全機能を無効化する様子（イメージ）

○エンジンを掛けたまま離れない。

除雪機のエンジンを掛けたままその場を離れると、こどものいたずらなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。一時的にその場を離れるときでも、必ずエンジンを切ってください。

○人が近くにいる時は使用しない。

障害物に衝突しないよう注意する。

除雪作業をする際は、周囲に人がいないことを確認しましょう。特に背丈の低いこどもは死角に入りやすいので、十分気を付けてください。また、後進する際は、足下や後方の障害物を事前に確認し、転倒することがないように気を付けてください。



死角に人がいないか確認する様子（イメージ）

○雪詰まりを取り除く際はエンジンを切り、雪かき棒を使用する。

エンジンを掛けたまま雪を取り除く作業を行うと、手を負傷するおそれがあります。雪が詰まった場合は、直接手で行わず、必ず備え付けの雪かき棒を使用して取り除いてください。

○屋内や換気の悪い場所ではエンジンを掛けたままにしない。

作動中の除雪機の排気には一酸化炭素が多く含まれています。一酸化炭素は無色・無臭で、発生に気が付きにくく、また非常に毒性の強い気体です。閉め切った屋内で除雪機のエンジンを掛けたままにすると、短時間で一酸化炭素の濃度が高くなり非常に危険です。除雪機は始動／停止も含め風通しの良い屋外で使用しましょう。エンジンを切った状態で、手で押して移動できない大型の除雪機等の場合は、窓などの開口部を開放して十分な換気が取れていることを確認してから、「屋内で始動し速やかに屋外に出る」、「屋内にしまったら速やかにエンジンを切る」などの対策をしてください。



換気を確保して除雪機を移動させる様子（イメージ）

事故品・事故事例を確認

○過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITEはホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite（セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、安元 隆博

Mail : ps@nite.go.jp Tel : 06-6612-2066

デッドマンクラッチ機構以外の安全機能

※除雪機安全協議会では、2004年4月から協議会加盟メーカーの除雪機（歩行型）においてデッドマンクラッチ機構を標準装備としています。さらに、車両重量350kg以上の歩行型ロータリ除雪機において、デッドマンクラッチ機構以外の安全装置の多角化のため、①挟圧防止（「挟まれ」対策）、②後進時非常停止（「ひかれ」対策）、③後進時急発進防止（「ひかれ」及び「挟まれ」対策）、④後進速度制限（「ひかれ」及び「挟まれ」対策）に関する装置を備えることを要件化したSSS規格を2021年6月に改定しました。2023年度生産分から適用されております。



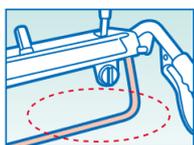
転倒した際にレバーを押すことで後進を停止する「後進時非常停止機能」（イメージ）

※その他安全機能（製品によっては以下のような安全機能も備わっています）



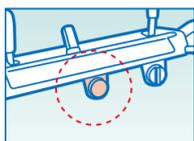
緊急停止クリップ：

使用者が装着しておくことで、使用者の体が除雪機から離れるとコードが除雪機から外れてエンジンが停止し、回転部及び走行が停止する安全機能。使用者が転倒した際や除雪機から離れた状態で作動することを防ぐもの。



緊急停止バー：

壁等で人が挟まれそうになった際にバーが押されるとクラッチが切れ、機械が停止する安全機能。ハンドル付近に設置される上部緊急停止バーと、足下付近に設置される下部緊急停止バーがある。



緊急停止ボタン：

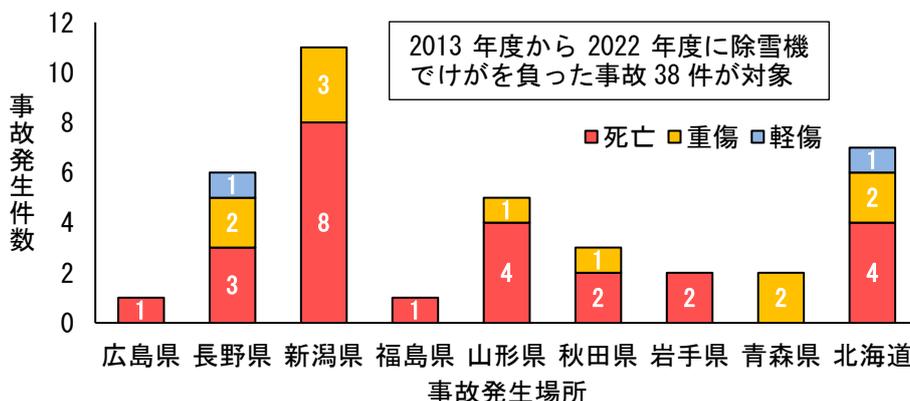
ボタンを押すと機械が停止する安全機能。

※イラストは、除雪機安全協議会のチラシから引用。

<http://www.ifmma.or.jp/data/jyoankvo-leaflet-2022.pdf>

都道府県別の事故発生件数

都道府県別では新潟県が最も多く、全体的には北海道や日本海側の豪雪地帯で多く発生しています。



被害者の年代別の事故発生件数

除雪機の事故の被害者の多くが高齢者です。

